

# 不当処分粉碎！職場を怒りの戦場へ！

## 日刊 動労千葉

79.12.29

No. 312

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（電話二三五八〇九・公衆電話三二七二〇七）

### 不当処分に対する抗議声明

国鉄当局は本日午前一〇時国鉄千葉動力車労働組合に、七九春闘および10・22、11・1成田空港二期工事反対、ジェット燃料増送拒否ストに対する報復として、解雇1名を含む106名の不当処分を発表した。

この不当処分の発表は八〇年代労働運動に対する政府国鉄当局の姿勢を示すものであると同時に、一部国鉄内反階級的労働組合との取引き合作による新生動労千葉の組織破壊をねらった極めて不当な政治的処分であることを明らかにせざるを得ない。

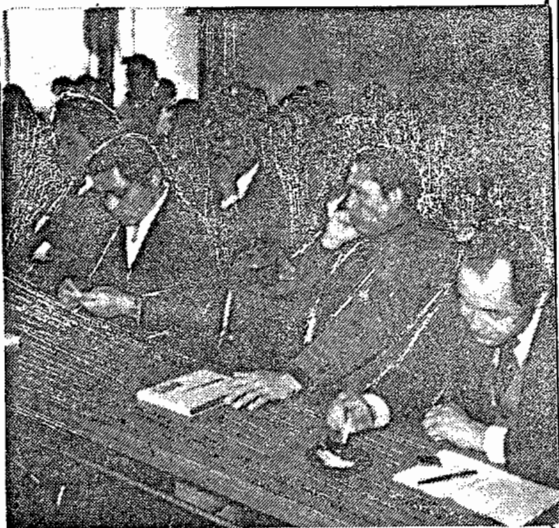
今日、労働運動指導層総体の右傾化は一段と深化しているが、職場の労働者は人べらし合理化、賃上げ抑圧攻撃の中で闘う労働運動の再生を期待している。

われわれはこの不当処分攻撃を起点に真の労働運動とは何かをすべての労働者に提起し、八〇年代にむけての戦闘的労働運動の再構築にむけての突破口とする決意である。

われわれは明二八日より三日間にわたり国鉄当局の不当な政治的処分に対して断呼として抗議の諸行動を組織する。そのために発生する国鉄業務の混乱の一切の責任は政府・国鉄当局にあることを声明する。

一九七九年十二月二七日

国鉄千葉動力車労働組合闘争委員会



政治的報復処分に激しい怒り、全支部から100名の抗議団つめかける。  
（前列左より西森副委員長、中野書記長、日暮成田支部長、水野財政部長）

### 当局、「本部」一体となった不当処分攻撃！

動労千葉各支部は、27日不当処分攻撃に対し直ちに反撃の闘いを開始した。今回の処分が、断じて許しがたい政治的報復処分であるかゆえに、抗議集会、区長に対する集団抗議行動、ビラ貼り行動が怒りをこめて展開された。次いで12月28日には、千葉鉄局に一〇〇名の抗議団を編成し、藤田千鉄総務部長以下局幹部に対し怒りをたたきつけたのである。とりわけ、津田沼支部片岡支部長他4名に対する「10・30暴行事件」なるデッチ上げをもつてする処分は、国鉄当局が「本部」革マル分子と一体となった政治的不当処分であり、激しい抗議がなされた。

「10・30津田沼暴行事件」デッチ上げ処分を許すな！

われわれは、中野本部書記長に対する解雇処分をはじめとするすべての処分を許すことはできない。それは51年以來の「解雇処分」攻撃に示されるごとく、処分のエスカレートをもって動労千葉破壊を通し80年代国鉄労働運動圧殺を策動するものであるからだ。

同時に、なによりも怒りをもって断罪しなければならぬことは「10・30暴行事件」なるものをデッチ上げ「職制の静止をきかず、職場秩序を乱した」等と理由をこじつけ、片岡津田沼支部長他4名に加えてきた不当処分である。

この処分は、「4・17津田沼電車区襲撃事件」に代表される「本部」反動革マル分子による、白昼公然と庁舎に武装乱入し、職制の眼前であらんかぎりの暴力を振り、庁舎を破壊し、列車を一〇〇本も運休させ片岡支部長に頭蓋骨骨折の重傷、多数の組合員に重傷を負せた行為、及び、成田、勝浦、新小岩への暴虐無人な暴力破壊行為を、国鉄当局は容認したということである。そればかりか、国鉄当局は、「千葉の職場秩序を厳正にし厳重処分せよ」なる悪名高き「動労闘争申1号」にもとづき、「本部」反動革マル分子と結託して出されたものであることは明々白々である。

われわれは、かかる「本部」反動革マル分子の暴力的組織破壊を積極的に容認し、動労千葉破壊を企図する、国鉄当局を断じて許してはならない。怒りをこめさらに反処分闘争に決起せよ。